

ツァイ・グオチャン(蔡國強)

Cai Guo-Qiang

1957- 中国

アーティスト。火薬を用いた作品(火薬の爆発による絵画制作やパフォーマンス)や、漢方、風水といった中国古来の文化を現代の手法に置き換えた作品を制作。現在はニューヨーク在住。

1957 - China

Artist. He produces work that uses gunpowder (picture production and performance constructed by exploding gunpowder) and replacing ancient Chinese culture such as Chinese medicine and feng shui with contemporary methods. In the present he lives in New York.

ツァイ・グオチャン(蔡國強)

光

2000年

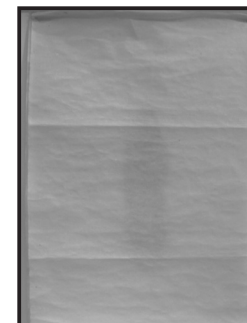
和紙に水彩

Cai Guo-Qiang

Light

2000

watercolor on japanese paper with blank japanese paper



1999年前館長である和多利志津子に男の孫が誕生した際にお祝いとして制作された。観音様が子供を抱いているイメージに故意的に薄い和紙が被さっている。

ツイ・  
グオチャン(蔡國強)

映像

「制限のある暴力—虹」

1995年

6分

**Cai Guo-Qiang**

Video "Restrained Violence- Rainbow"

1995

6min



ガラス、そして外壁の痕跡によって虹を描くというものであった。ネルソン・マンデラがレジスタンス運動で採択した経済拠点のみを工作対象とする方針と、現在の新生南アフリカを虹の国として蘇えらせようとするスローガンを含めた作品となっている。

アートというメディアで南アフリカに蔓延する暴力に対し、西洋ではガン・パウダーとよばれる火薬を、その本来の意味「火のくすり」として用いたのであった。

1995年2月28日から4月30日までの二ヶ月間、南アフリカのヨハネスブルグ市が主催する第一回ビエンナーレが開催された。これはアフリカ大陸で初めての大規模な現代美術展であった。ワタリウム美術館の和多利浩一が日本代表コミッショナーとして参加。

ビエンナーレのオープニング公式イベントとして、蔡國強による火薬のプロジェクト「制限のある暴力—虹」が行われた。これは1920年代に建設された長さ300mを有する発電所の外壁に導火線と小型爆薬を仕掛け、爆発の炎と破碎された窓

ツァイ・グオチャン(蔡國強)

「水の波紋95」展  
のための展示プラン  
1995年  
ゼロックスコピーに  
サインとナンバー

## Cai Guo-Qiang

Exhibition plan for “Ripples Across the Water 1995”  
1995  
copy of signed and numbered xerox print

<水の波紋95展 1995年9月2日～10月1日より>  
「幼稚園と墓場の中の壁を越え(現実的次元を超え)、(竹の)橋を架設する。(目に見えない道)幼稚園から墓場に行くか、また墓場から幼稚園に行くか。仏教は、よくどちらからも彼岸を望む。(例:生から死、死から生の輪廻再生の教義)幼稚園は、人がいるところなのに、人は無い。墓場は、ひとがいないのに、人が有る。幼稚園に人がいなくなったら、やがて墓場にも住人がいなくなる。そして寺もなくなるだろう。竹は、生成の象徴。まわりと調和しやすくなるためである。

また、より抽象的、哲学的、宗教的。美学的弾力性、純粹性を与える。作品は、迫力、存在感が強くて、立ちあがるのではなくて、できるだけ、隠蔽的。静かに青山の町に沈む。こちらの生と死、栄光と枯寂等とつながって行く。」

蔡國強

「橋」

設置場所：青山・善光寺

水俣の竹でつくられた作品。観客は、橋の片側、旧善光寺幼稚園から昇り、もう一方のお墓に降り立つ。

